

今回、悲しいお知らせをしなければならない事、心苦しく思っています。

2022年2月23日、キミ子方式の創始者である松本キミ子が、虚血性心不全で、自宅にて死去しました。享年81才。

検視して下さった先生曰く、発症から死亡まで数分だったのではと、おっしゃっていました

一人暮らしをしていたキミ子さんの死亡がわかったのは、25日(金)の朝、彼女がアートスクール担当日である金曜日に、自宅に迎えに行ったボク(松本一郎)が、自宅での定位置である、テレビ前の一人掛けのソファに深く座り、動かなくなっていたキミ子さんと対面しました。

その時のキミ子さんは、本を読んでいる途中でうたた寝しているかのように穏やかで、少し笑っているようなキレイでかわいい表情でした。

先生の説明では、「おだやかな表情をしてらっしゃるので、突然に心停止したのではなかろうかと思う」と言っていました。

ボクが、生前のキミ子さんに会ったのは、23日(水・祝)の夕方5時頃。ここ何年か、食事の宅配を利用していたキミ子さんでしたが、土日、祝日が食事の宅配がお休みになるため、ボクが食事を届けていたので、キミ子さんが気に入っていた炊き込み御飯のおにぎり、簡単なおかずを持って、キミ子宅へ行きました。

マンション入口のオートロックの扉を開けてもらうため、インターフォンを鳴らし解錠してもらい、エレベーターで4階の部屋へ向かうと、玄関まで受け取りに出てきていました。

その時に、前日の夜にキミ子塾の次年度更新の方々へ、添削課題のテーマの通知する手紙を8人分、玄関前に置いていたため、

「前日、お仕事を置いてたけど、やってる？」と聞くと、

「やってない」と言うので、

「今回、8人分あるから大変だけど、急いでないから、2人分くらいやって、次の日にまた2人…って感じで、ゆっくり書いてね」とお願いして分かれました。

次の日、24日午前中に、仕事の進捗状況を聞こうと、携帯へ電話しました。すると留守番電話につながりました。

普段なら、留守番になっても折り返してくれるのですが、返信はありませんでした。

また、夕方にもう一度電話してみましたが、それも留守電で、返信なし。その時にボクは〈まだ、仕事に手をつけてないから、バツが悪くて電話してこないのかな〉くらいに思っていました。

そして、25日の朝、金曜日は、アートスクールの担当日なので、車で送迎する日です。朝8時くらいに、何時に迎えに行くかと電話で打ち合わせするのがルーティンになっているので、携帯へ電話すると出ません。ためしに自宅電話にダイヤルすると、それも留守電に…。

この時に、少しなんかいやな気がしたのですが、8時40分頃、マンションの前に車を停めて〈マンション前で待っている〉旨を伝えようと、電話すると、また出ないので、これは何かあったかと、部屋に向かい、静かなキミ子さんと対面したという経緯でした。

キミ子さん。その人生を全力で走り、多くの人に〈絵を描く楽しみ〉を届け、80才で引退することを公言してましたけれど、奇しくもコロナ禍の影響で、地方の仕事が中止になり、出歩くことがなくなりました。

ここ数年、アートスクール担当日は、車での送迎になり、行き帰りの車内で会話する時間も多くなりました。

また、キミ子さんの兄弟のお見舞いに行きたいと言えば一緒に出かけたり、6月が命日の、次男、太郎さんの墓参りに新潟県にある東養寺に行ったり、年に一度くらいは海が見たいと言うので、1月に〈上げ膳据え膳ツアー〉で、小田原・伊豆方面に出かけていました。

そして先月、1月下旬に出かけた〈上げ膳据え膳ツアー〉が、最後のイベントになってしまいました。

最近、教室に向かう車内で「これまでの人生で、こんなに男に優しくされたことはなかったわ〜」と言い出すので、「あら、それはよかった」という会話を交わしたこともありました。

ボク自身も、親の面倒を見るなんて、若いときには考えもしませんでした。やはり、少し弱ってきた母親には、できることをしてあげようという心境の変

化もあって、希望を叶えてきたので、後悔はみじんもありません。

ただ、少しだけ残念だったのは、23日に届けた食事に手をつけてなかった事くらいでしょうか。

今は、ふつうの人の何倍も動き回り、たくさんの喜びを届け、希望を与えてきたのですから、ゆっくりと休んでもらえればという心境です。

○葬儀について

コロナ禍の今、みなさんをお迎えするのも気が引けて、大々的な葬儀は考えませんでした。

葬儀社の担当者と、火葬できる斎場の空き状況などと照らし合わせて、28日(月) 14:00 に、最後のお別れをすることにしました。

全国のたくさんの方に慕われていたキミ子さんですから、きっと最後のお別れをしたかったと思われる方もいらっしゃる事は重々承知していますが、このような形で最後になってしまうこと、ご理解頂ければ幸いです。

ただ、それで終わり……、というのもさみしいので、
3月24日(木)、25日(金)、9:00～15:00まで、
東京都稲城市にあるキミ子さん宅で、生前キミさんが生活していた部屋にある、書籍(これがスゴクたくさんある)、キミさんが描いた絵画や彫刻、ニワトリの置物、友人の陶芸家が制作した器、洋服や着物などを、好きに持ち帰ってもらう〈つどい〉。

題して〈キミ子さんの遺品も持ち帰る会〉を開催します。

キミ子宅は、京王相模原線「稲城駅」(新宿から京王線で30分)。 駅改札から徒歩1分の「パストラルハイム稲城406号室」です。開催期間中の二日間は、松本一郎が部屋にいます。

ぜひ、お越し下さい。そしてキミ子さんの思い出を語り合いましょう。
当日は、荷物を発送する準備もしますので、好きなだけ箱に詰めて持って行って下さい。

また、お気遣いで悩まれることを想定して、お花やモノはご辞退させていただきます。〈でも、会に行くのだから、手ぶらでは……〉と思われるなら、心ばかりの香典だけにして下さい。

ただ、ボクとしては、わざわざご足労いただき、遺品を引き受けていただくだけで嬉しいのですから、今度は香典の中身で悩むことのないようお願いします。

キミ子さんは、現在、遺骨になってボクの部屋に鎮座していますが、6月6日が次男太郎さんの命日なので、それに合わせて、新潟県魚沼市にある東養寺にある〈科学の碑〉に納骨予定です。20年前に亡くなった太郎さんも、科学の碑に納骨されているので、一緒になれて喜ぶのではと考えてます。

~~~~~  
○今後のキミコ・プラン・ドウについて

キミ子さんという、トップが不在になったキミコ・プラン・ドウが、今後、どのようにしていくかを、開始時期の時系列でお伝えします。

「アートスクール卒業制作展／萬谷耕造水彩画展」

4月1日～3日に予定しています。卒展と個展は、予定通りに開催します。

「駒場クラス5月生〈わたしにも描けました展〉」

PART1 4月8日～10日    PART2 4月15日～17日    二つとも予定通りに開催します。

「教え方セミナー 2022・春」

4月22日～24日    キミ子さんから学ぶと銘打っているのに、心苦しいのですが、松本一郎を講師に、予定通り開催します。

「2022年度・第14期 松本キミ子のアートスクール」

4月25日（月）～    これも、松本キミ子の～と銘打っていますが、月曜日／火曜日の担当が松本一郎、金曜日担当が杉山 操が担当し、予定通りに行います。

「横浜街中淡彩スケッチ」

4月29日（金・祝）    予定通り行います。

### 「駒場クラス5月生／9月生」

もともと、キミ子さんの担当日はないので、通常通りに行います。

上記以降のイベントも、昨年同様に開催していく所です。開催時期が近づいてきましたら、募集パンフレットなどで告知します。

### ○キミ子塾／通信講座について

この二つは、キミ子さんが担当していたものです。それなので、大幅な変更をしなくてははいけません。

### 「キミ子方式通信講座」

開設当初から、作品添削をキミ子さん1人でしてきました。しかし、今後は松本一郎が作品添削をさせてもらいます。

現在累計600名以上の方が、通信講座に関わってくれました。その作品の感想文とキミ子さんが書いてきた添削文の全てに目を通してきた自負はあります。キミ子さんのように、豊富な人生経験には足りませんが、誠心誠意、添削させてもらいたいと決意も固く念じていますので、今後とも、どうぞよろしくお付き合い頂ければ嬉しいです。

### 「キミ子方式を教える人必須 キミ子塾」

現在、北海道から沖縄まで、45名の方が加盟する「キミ子塾」。キミ子方式を教えている人が入会するグループです。入会月から1年間の期間があり、教えている限り、入会するのがお約束です。

入会の特典として、年間3回、描いた作品を、キミ子さんが添削し、添削文と共に、次回の課題を考え、出題するという形になっています。

当初、担当だった川合京子とキミ子さんがディスカッションして、次のテーマを決めていましたが、途中からは、キミ子さんが担当になっていました。

そして、キミ子さんも不在になった今、添削課題の決定と、作品添削は松本一郎が担当して、今までと変わらない形で継続していきますので、今後とも、どうぞよろしくお付き合い下さい。



## ○毎月発行「ビギニングニュース」について

ビギニングニュースも、1989年開設から発行し、現在395号まで継続しています。

紙面は、巻頭にキミ子さんの文章を1990年7月の第15号から掲載し、他には、通信講座とキミ子塾の方が描かれた作品写真（白黒で心苦しいのですが）と感想文、そしてキミ子さんが書かれた添削文、イベントの報告や、頂いたお手紙や、投稿文章、その月のイベントや作品展の案内などで構成されています。

実は、キミ子さんが75才の時から、巻頭の文章は、以前掲載した原稿をリライトして、再掲載する形を取っていました。なので、今後も同じに、キミ子さんが以前に書かれた原稿をリライトして、今後も発行を続けていきます。

現在、絶版になってしまっているキミ子さんの著書の文章を、連載形式で再録することも考えてます。

キミ子さんが書かれた文章は、膨大な数ありますので、新しい文章には出会うことはないけれども、上記のような形で、今までと変わらない形で発行していく所です。

## ○これからのキミ子方式について

1975年に発表してから47年間続いてきたキミ子方式も、キミ子さんの死去で何らかの変化があるでしょうか？

まだ、キミ子さんが亡くなって5日しか経っていない現在、それはボクも分からなければ、きっと誰にもわからないことでしょう。

しかし、一つの絵画技法が47年間続いていて、これからも続いていくだろうという根源はなんだろうと考えました。

一つは、創始者の松本キミ子の人間的魅力が、絶対的にあると思います。分け隔てない人との関わり方、弱い人を起点に考える視点、広い視野と深い経験、その行動力……。

彼女がキミ子方式を教えている時には、絵の描き方を伝えるというだけでなく、彼女の思想が色濃く発せられるから、人はステキな作品を描けるよう導かれていくのでしょうか。

次に、キミ子方式は単なる絵画技法の枠を超えて、物事に対する見方や考え方

に、常識を越えた真理があるからだと思います。それは、人は年齢や性差、職業や立場に関係がなく、キミ子方式を学ぶ場は、いつでも全ての人が平等で、それぞれ魅力的で、かけがいのない存在なのだという思想が、根底にあるからだと思っています。

そして、これが一番大切な事。キミ子さんの初の著書のタイトルにある「絵のかけない子（人）は私の教師」という姿勢を、ブレずに行ってきたからだと思っていますのです。

本来、学びの場は、教師と生徒、知っている者が知らない人に教えてやる的、上から下へという空間になりがちという通説があります。

以前に、落合恵子さんが主宰する「ウーマンズスクール」の準備段階で、スクールの講師たちが集まったミーティングがあったそうです。その中の1人が「スクールという先生／生徒という関係は上下関係を生むので好きになれない」という意見がでたそうです。

その時にキミ子さんは、その意見に対して、「教える／学ぶという関係は、同じ目線で学び合う、濃密なコミュニケーションでしょう」と言ったと、以前に書かれた文章の一節で書いていました。「教える／学ぶは濃密なコミュニケーション」という考え方は、キミ子さんらしい考え方が生きているのです。

そして、「かけない人から学ぶ」という視点は、言い換えれば「生徒がいなければ、先生の存在価値はない」とも言えます。

先に47年続けて来たと書きましたが、その根源は、単純に「キミ子方式を学んでくれる人がいた」からなのです。

この先、キミ子方式が継続していくために、主宰する側がもっとも大切にすること、それは「学びに足を運んでくれた人への感謝」を持ちながら、同じ目線で、1人1人の生徒さんから学ぶという姿勢を持ち続けることなのです。

そして「来て楽しかった、良かった」と言ってもらえるように、私たち講師も学び続けていきますので、これからもどうぞ、よろしくお付き合い下さい。

キミコ・プラン・ドウ 松本一郎

2022年2月28日



パンフレット用に撮影 2021.9

## 松本 丰三子

1940.5.4 - 2022.2.23 享年 81 歳

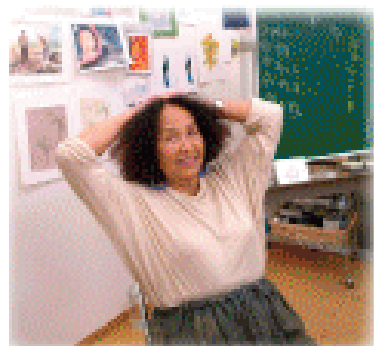


東大宇宙研 2017.4



伊豆・八幡宮池 2019.1





教え方セミナー 2016.4



作品展打ち上げ 2020.4



上げ園ツアー 2021.1



上げ園ツアー 2022.1



北海道 メゾン・ド・キミ子  
孫、サエちゃんと 2017.6



新潟・東麓寺／孫、健太くと 2021.6



東京・多摩 日華多摩葬祭場にて 2022.2.28



一郎仙室 6月6日に科学の碑に納骨予定

## キミ子の遺品を 持ち帰る会

2022.3.24. 木 / 25. 金

キミ子家の遺品の一つに「気持ちモノで暮せ」というのがあって、ボクがキミ子方式を教えた始めに、キミ子さんから「お仕事をいただいたら、御礼の言葉だけより、八百屋さんにお世話になったら〈野菜を買って帰れ〉、本屋さんにお世話になったら〈本を買って帰れ〉」という教えから、これまでもお世話になった方に、モノ(遺品)を持ち帰っていたのだと思って準備しました。

この会には、2日間で134名の方がご来場いただき、たくさんのお品を手に入れました。足を運んで下さってありがとうございました。 松本一朗 2022/04/01

